

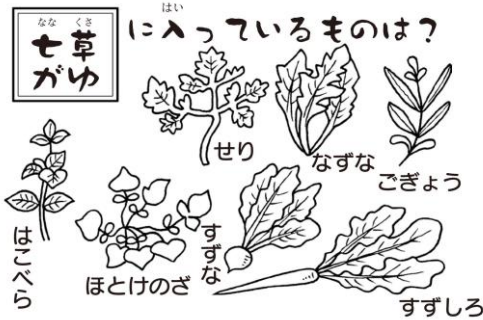
給食だより

平成29年度 1月号
西能美学校給食共同調理場

あけましておめでとうございます。早いもので今の学年で過ごすのも残りわずかです。冬休み中、食べ過ぎや運動不足になり、生活リズムが乱れがちだった人もいないでしょうか。規則正しい生活を取り戻し、元気に学校生活を送りましょう。生活リズムを整えるには、「早寝・早起き・朝ごはん」が基本です。早起きを、しっかり朝ごはんをたべてから登校しましょう。

“春の七草”ってなあに？

平安時代から続いてきた日本の食習慣である「七草粥」。新年が明け、1月7日には、春の七草を摘み、おかゆにして食べることで、“1年間の無病息災を願う”という意味が込められています。春の七草には、昔から腹痛薬として用いられたり、食欲増進などの効果があるものばかりです。お正月のごちそうで疲れた胃腸を休めてあげましょう。



ひとくちだよりから

- 12/4 (月) 寒い中、おでんとご飯の温かさがとても体に染み、芯から温まりました。<能美中3年1組>
- 12/5 (火) しょうがの力で体がポッカポカになりました。参観日なので力がわいてきそうです。今日にピッタリなメニューでした。<大古小6年>
- 12/7 (木) 日本の大根の生産量が9割以上占めているここにびっくりしました。<鹿川小5年>
- 12/11 (月) ぼくは豆がきらいだけどカレーにしたら早く食べられた冬野菜カレーがおいしかったです。<中町小3年>
- 12/14 (木) チーズフライを100こ食べたかったです。<三高小1年>
- 12/15 (金) きなこあげパンを出してくれてありがとうございました。あまくっておいしかったです。また出してください。<江能分級高等部1年>
- 12/18 (月) めっちゃごはんすすみます！ポカポカしますね～<三高小3年>

1月24日～30日は全国給食週間です！

学校給食はもともと、貧しくてお弁当を持ってこれない子供たちのために、おにぎりや焼き魚などの簡単な昼食を提供したのが始まりとされています。その後全国へ広まりましたが、戦争による食料不足で中止されました。戦後、外国からの支援物資で再び学校給食が始まったのが昭和21（1946）年12月24日のことでした。通常はこの日は冬休みに入るので1か月後の1月24日から1週間を「全国学校給食週間」としました。

昔の給食をふり返ってみよう

- 明治22年 (1889)** 学校給食のはじまり
山形県にある小学校で、家が貧しくてお弁当を持ってこれない子のために食事を出したのがはじまり。
- 昭和21年 (1946)** 戦後、給食が再開される
- 昭和25年 (1950)** パンとミルクとおかずの給食に
▲ドラム缶入りの脱脂粉乳
脱脂粉乳は、牛乳から脂肪分を取り除いて粉にした脱脂粉乳に、砂糖などを加えたもの。にがてな子が多かった。
- 昭和30年代 (1955～1964)** 大きなコッペパンとクジラ肉のメニュー
▲マカロニとさげ缶のミルクスープ
▲コッペパン
アメリカから支援された小麦粉を使って作られていた大きなコッペパン。
▲ふるふき大根のおかず
▲クジラの竜田あげとサラダ
クジラの竜田あげ
このころ値段が安かったクジラ肉がよく使われた。
- 昭和38年 (1963)** ソフトめんが登場！
- 昭和40年代 (1965～1974)** 脱脂粉乳から牛乳へ切り替わり、パンやおかずの種類も増える
▲カレーシチュー
▲揚げパン
コッペパンをあげて、砂糖やきな粉をまぶした、今でも人気のパン。
- 昭和51年 (1976)** 正式にごはん給食がはじまる
ごはん給食が多くなり、いろいろなメニューが増えていく。
▲ごはん給食の様子
- 昭和51年 (1976)** ▲カレーライス